

# ＝熱中症を一件も出さない取り組みを＝

## 携帯型熱中症計などを利用し、事前対策を確実に実施しよう！

### 個人の対策中心でなく、職場環境改善にこそ努力を

7月に入り、今年も熱中症の心配な季節がきました。

職場では「クール24」（①健康な体が全てに活かされる、②体を暑さに慣らす・鍛える、③不調要因の先取り、④水分・塩分補給のルールを守る、⑤自ら暑さを乗り切る努力をする）が取り組まれています。これらはいずれも個人の注意を喚起するだけのものです。しかし、造船のような職場では個人の努力で熱中症を防ぐのには限度があります。熱中症を心配しないですむような職場環境を作ることが中心問題です。

昨年、一部の職場で携帯型熱中症計を使用して、その実態を計測しましたが、多くの職場で「危険」の状態であることが分かりました。日本気象協会が発表する週間の熱中症指数なども活用し、事前の対策を実施することが必要です。

### 携帯型熱中症計を配付し、

### 熱中症を一件も出さない取り組みを

この夏の横浜での建造船は保安庁巡視船や艦艇で、狭隘な環境での作業が多くなります。職場環境にあった対策の実施が必要です。

携帯型熱中症計を全員に配付し、各自が職場実態を知ることが欠かせません。また狭隘作業では換気が重要で、スポットクーラ、ベビーファンや換気筒の増設が必要です。これらの実施を職場実態にあわせ実施しましょう。

### 次のことは今すぐ出来ることです

- ☆作業場所に誰でもすぐに見られる温湿度計を設置する
- ☆作業場所で気温が30℃を超えたら作業を中止し暑さ対策をとる
- ☆気温が30℃以上にならないように、大型クーラーやサンネットを十分に準備し、設置は作業者にまかせるのではなく、安全衛生管理者を中心に、プロジェクトチームを作り計画的に取り組む
- ☆作業場所に冷房設備の整った休憩場所（プレハブ小屋など）を設け、横になることのできる広さと、着替えなどの保管スペースを確保する
- ☆スポーツドリンクや麦茶などを十分に用意する
- ☆適宜グッズに散水し、直射日光を遮断し、鉄板を冷やす対策をとること
- ☆熱中症による休業や早退は公傷扱いにする

### 「2014年問題」を乗り切れる、魅力ある造船産業に

予想される造船不況をのり切るためにも、魅力ある造船産業をめざす必要があります。炎天下での作業を当然とするのではなく、全天候型のドックの建造で、職場環境を大きく改善する必要があります。そうしてこそ充分な猛暑対策もでき、良い環境をつくってこそ、より良い仕事ができ、経営改善にもつながります。

2012年7月

日本共産党石川島委員会 造船支部